



2014 横浜市ミニバスケットボール連盟

決勝大会 戦評

男子準決勝

原・三ツ境ミニバス VS 戸塚ミニバス

1Q

先制点は原三ツ境#4。戸塚は#5の積極的なプレーと#8のリバウンドで良いスタートを切るが、その後、原三ツ境のマンツーマンに攻めあぐねる。原三ツ境は#4のセンタープレーと#5のミドルシュートで点を重ね、リードを5点に広げた。しかし、残り2分から、戸塚が#5、#6のシュートで追い上げ、9対8。原三ツ境1点リードで1Q終了

3Q

前半に引き続き、両チームともオールコートマンツーマンで3Qスタート。#4のリバウンドシュートで先取点を奪う原三ツ境だが、戸塚の激しいディフェンスに台形を攻めきることができず、点が止まった。戸塚は#4がロングシュート、#5がミドルシュートを決めるが、ミスが続き、なかなか点差をつめることができない。点が動き始めたのは残り3分。原三ツ境の#12がドライブでファールを誘い、フリースローを2本決めた。対する戸塚は#5がミドルシュートとゴール下シュートでバスカンを決め、点差を3点に縮める。しかし、原三ツ境は#6、#12、#4と、バランスの良い得点で再びリードを広げ、36対29で3Q終了。

2Q

戸塚#7の力強いドライブで戸塚が逆転。リバウンドも頑張り、速攻から#9のゴール下シュートで9対14と戸塚がリードを奪う。一方、原三ツ境は、#10、#6がリバウンドシュートを決め、食らいつく。残り3分、戸塚に3点リードを奪われた状況で原三ツ境がタイムアウト。その後、原三ツ境#12が、速いドライブからのシュートやミドルシュートで一気に連続11得点を上げた。戸塚は#7と#12の外のシュートで反撃するが、ミスが重なり、苦しい状況が続く。24対18。原三ツ境が6点にリードを広げ、2Q終了。

4Q

出だし、原三ツ境のシュートファールで得たフリースローを戸塚#8、#5の2人が2本ともしっかり決め、安定したスタートを見せた戸塚だが、その後は点が止まり、残り3:57でタイムアウト。原三ツ境は、#11のリバウンドシュート、#4の力強いゴール下シュート、ナイスパスからの#11ゴール下シュートで勢いを増す。戸塚は#5のミドル、#9のドライブと、ゴールに向かい続けるが、点差を縮めることができず、50対37で原三ツ境が決勝進出を決めた。

男子準決勝

東希望ヶ丘ミニバス VS 川上北ミニバス

1Q

互いに手の内を知り尽くしあう両チーム。両チームマンツーマンでスタートだが、中心選手を厳しく守りあう形でスタート。東希は⑥がハイポストからシュートを決め先制。このシュートで勢いに乗った東希は⑥がコーナーからのミドル、⑨のジャンプシュートで6-0とリードする。対する川北は④を中心に攻め、⑨がミドルを入れ1ゴール返す。しかし、東希は④がミドルを決め、再び6点差とする。東希は川北④をフェイスガードで守り、苦しいシュートを打たせる。そのリバウンドを東希がとり④のワンマン速攻で10-2とさらに差を広げる。川北は⑦が終了間際に4ファールのフリースローを2本確実に決め、10-4東希が6点リードで1Q終了。

3Q

東希はハーフコートマンツーマン。川北は2-2-1から東希④に対してボックスワンを仕掛ける。川北は、⑨のジャンプシュート、⑥のステップインで引き離しにかかる。しかし、このシュート以降、両チームともディフェンスやリバウンド、ルーズボールを頑張り続け膠着状態が続く。残り2分を切って東希⑤、川北⑤が互いに点を取り合い3Q終了
25-24。川北1点リードで最終Qへ

2Q

開始早々から川北は一気にたたみかける。⑤のミドル、⑩のスティール、⑤のドライブからバスカン、⑬のゴール下と④連続得点で一気に逆転に成功する。

対する東希は⑤が1on1でディフェンスを抜き去ってシュートを決め再逆転となる。

しかし、川北は攻撃の緩めない。速い展開からシュートを続けて決め17-14とする。

残り2秒、東希は⑦がミドルを決め、17-16。川北が1点リードをした後半へ。

4Q

ディフェンスは3Q同様でスタート。

川北は⑤のフリースローで引き離しにかかる。東希は④にディフェンスが寄ったところについて⑤⑧がミドルを決め逆転に成功する。東希はポストを中心に攻め、流れは東希に傾く。一進一退の攻防が続く中、川北⑥がコーナーからドライブを決める。東希のオフェンスが失敗すると再び川北⑥がコーナーからドライブ。難しいシュートをねじ込み、会場から大きな歓声があがる。この2本のドライブで勢いに乗った川北は、⑤のミドルで差を広げる。東希は⑤がフリースローを決め1点差まで詰め寄るが、残り24秒、川北はボールをコントロールし35-34の1点差で勝利を収めた。



2014 横浜市ミニバスケットボール連盟

決勝大会 戦評

女子準決勝

榎が丘ミニバス VS 戸塚ミニバス

1Q

榎が丘ボールにてスタート。開始早々に榎が丘#4 がミドルシュート、外れるが#12 がリバウンドシュート、つづげ様に#4 がミドルシュート、またしても#12 のリバウンドにより連続ゴール。対する戸塚は#4 の個人技によるドライブインとルーズボールからの速攻で得点を返す、すかさず榎が丘は#4 のミドルシュートと、高さを生かした#4⇒#12 へのホットラインで得点を重ねる。戸塚は#4 のミドルシュートなどで応戦するが、高さのあるディフェンスに苦しいオフェンス展開となる。#4 のボールコントロールと#12 の高さを生かし確実に得点を重ねた榎が丘ペースで1Q終了。

3Q

榎が丘ボールスタート、序盤、戸塚のオールコートディフェンスにボール運びが上手くいかない、一方戸塚は榎が丘のゾーンを崩せず外でのボール回しで時間が経過し苦しいミドルシュートの展開となる。後半になるにつれ榎が丘#4 が徐々にペースを取り戻し、#5 のミドルシュート、#12 の高さを生かしたループパス、#4 のドライブからのパス&ミドルシュートにより得点を重ねる。一方戸塚は早い攻めの展開に持って行きたいが、榎が丘のハーフゾーンを崩せず、榎が丘がいいリズムを保ったまま3Qが終了このQも榎が丘ペースで終了。

2Q

榎が丘ボールスタート、開始早々、榎が丘#5 のドライブイン/ミドルシュートで3連続ゴールを決める、たまたま残り4:33で戸塚タイムアウト。タイムアウト後戸塚は果敢にドライブをしかけるが、榎が丘のディフェンスを突破できず攻めあぐみターンオーバーが続いた、その後両チーム1本づつのミドルシュートを決め2Q終了。榎が丘は#5のボールコントロールからディレード気味の展開、戸塚はドライブをかけるが抜けきらずミドルシュートでの攻撃となり、榎が丘ペースで終了。

4Q

最終Q、戸塚ボールスタート、序盤に点差を詰めた戸塚は#7のフローター&ミドルシュートにより得点するが、榎が丘も#4、5の2対2、#12のリバウンドシュートで応戦。点差が思うように詰まらず、残り3:19戸塚、タイムアウト後、戸塚は#4の速攻&ジャンプショット#7のミドルシュートにより追い上げムードとなるが、榎が丘#4は焦らず時間を把握したボールコントロールを行いチームを落ち着かせる。その後両チームともディフェンスを頑張り得点のこう着状態が続きタイムアップ。榎が丘のボールコントロールの上手さと#12の高さが際立ち、戸塚がゾーンを攻めきれず得点を重ねることができず、榎が丘の勝利で終わった。



女子準決勝

小菅ヶ谷ミニバス VS 山田ミニバス

1Q

小菅ヶ谷のボールポゼッションから⑩のドライブを⑥がリバウンドで小菅ヶ谷が先制する。小菅ヶ谷の厳しいディフェンスで、山田のミスが多くなる。⑩のアシストから⑨、⑪が追加点を獲得。山田も⑨のジャンプショットで応戦するが、その差を縮めることができない。小菅ヶ谷 14-5 山田で1Pを終える。

3Q

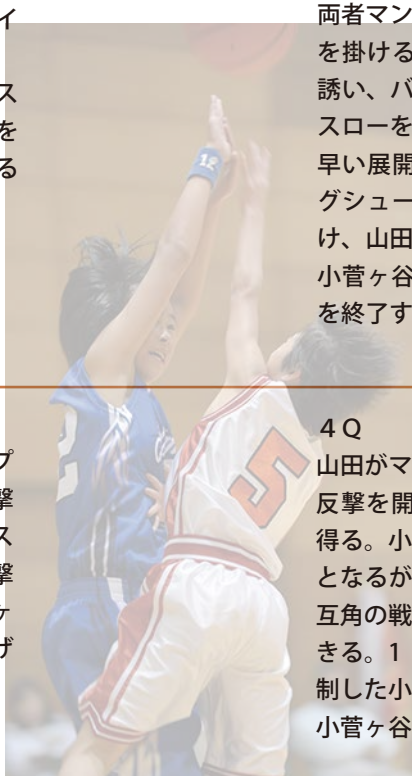
小菅ヶ谷がマンツーマン・ディフェンスでプレッシャーを与えミスを誘い、早い展開の攻撃で⑧⑩が追加点を重ねる。山田も⑧のフリースロー、④のアシストから⑤が得点する等で反撃をするが、その差が縮めることができず、小菅ヶ谷 37-19 山田と小菅ヶ谷が更にその差を広げる展開で3Pを終える。

2Q

両者マンツーマン・ディフェンスで相手にプレッシャーを掛ける展開となる。山田⑫がドライブでファールを誘い、バスケットボールカウントとなる。このフリースローを決め、1Pでの差を縮め始める。小菅ヶ谷は早い展開の攻撃でゲームを進める。⑦の速攻、④のロングシュート、更に⑧のリバウンドシュートで加点を続け、山田との差を広げる。小菅ヶ谷 27-14 山田と小菅ヶ谷がリードを広げ前半を終了する

4Q

山田がマンツーマン・ディフェンスから⑤④が連続得点し反撃を開始。その後も⑨⑫、④のフリースローで追加点を得る。小菅ヶ谷は⑩⑨がファールアウトとなり苦しい展開となるが、⑧の力強いオフェンスで応戦する。4Pはほぼ互角の戦いとなるも、小菅ヶ谷が3Pまでのリードを守りきる。1試合通してリバウンド、ルーズボールを圧倒的に制した小菅ヶ谷がこのゲームを制するゲームであった。小菅ヶ谷 47-28 山田で試合終了。





決勝大会 戦評

女子決勝 小菅ヶ谷ミニバス v s 榎が丘ミニバス

1Q

#4 からセンター #12 にパスを入れ、ゴール下での得点で先制点を決めた榎が丘。対する小菅ヶ谷は、早いボール回しから#7のミドルシュート、#4のロングシュートで得点を重ねる。小菅ヶ谷はオールコートマンツーマンで厳しくプレッシャーをかけるが、榎が丘は高さをうまく活かし攻める。榎が丘は#12のゴール下の力強いプレーに加え、リバウンドも圧倒した。さらに#12のリバウンドから#4のワンマン速攻が決まり点差を広げる。榎が丘の堅い守りに対して、小菅ヶ谷は早いパス回しからシュートを狙うも得点を決めることができず、榎が丘が 16 対 6 でリードして 1Q 終了。



2Q

榎が丘はハーフコートのゾーン、小菅ヶ谷は 1Q に引き続きオールコートマンツーマン。両チーム堅い守りで無得点の時間帯が続く。3 分たったところで、ようやく榎が丘 #5 がゴール下シュートを決め、このクォーターの先制点を決める。小菅ヶ谷も、積極的に攻め得点を狙う。ゲームタイム 1 分 50 秒ところで、#11 の見事なミドルシュートが決まり小菅ヶ谷もようやく得点を決めた。残り 7 秒、小菅ヶ谷はタイムアウトを取り、ラストワンプレーで得点を狙うも、榎が丘は守りきり、18-8 で榎が丘リードで 2Q 終了。

3Q

このクォーターも榎が丘はハーフコートのゾーン、小菅ヶ谷はオールコートマンツーマンでスタート。小菅ヶ谷は榎が丘のディフェンスを崩す為に、インサイドにボールを入れ、カッティングプレーを取り入れながら得点を狙う。対する榎が丘は、#5 のドライブシュートで先制点を取る。一進一退の攻防が続く。ゲームタイムが 2 分切ったところで、榎が丘 #12 がゴール下で確実に得点を重ねた。3Q 終盤、小菅ヶ谷はインサイドから #5 への見事な合わせが決まり、必死で食らいつく。28-16 と点差は縮まらず、ゲームは最終クォーターへ。



4Q

スタート、1 分半たったところで、榎が丘 #5 がジャンプシュートを決め、このクォーターの先制点を取る。一方、小菅ヶ谷も #4 の鋭いドライブからファールを誘い、フリースローを決め得点を得る。ゲームタイム 3:12 のところで、榎が丘 #12 の見事な飛び込みリバウンドからバスケットカウントを取り、一気に榎が丘の流れを引き寄せさせる。対する小菅ヶ谷も早いモーションオフェンスから、#5 や #10 のミドルシュートで得点を狙うも中々決めることができず、点差を縮めることができない。最後は榎が丘が落ち着いてゲームコントロールをし、36 対 20 で榎が丘が勝利を勝ち取った。両チームの健闘、ナイスプレーに多くの観客が惹きつけられた素晴らしいゲームだった。

決勝大会 戦評

男子決勝 原・三ツ境ミニバス vs 川上北ミニバス

1Q

川上北⑨のジャンプシュートで試合はスタート。

原三ツ境も⑩がスティールからそのままシュートを決め、この試合初得点とする。しかし、先制点を奪った川上北は勢いそのままに④のスピードある1対1を中心に連続得点を奪う。対する原三ツ境は、全員が得点するバランスのいいオフェンスで対抗する。

両チーム積極的に1対1を仕掛け、得点の取り合いの展開になる。

原三ツ境は1Q終盤に⑤のフローター、④リバウンドからの3点プレーを決め、13-10とリードし、1Q終了。



2Q

原三ツ境はDFからボールを奪い連続得点をあげる。

川上北も⑥の1対1を中心に反撃を開始する。

しかし、原三ツ境は⑧がミドルシュート、リバウンドから3点プレー、リバウンドシュートと連続得点。

川上北⑤がフローターを決めれば、原三ツ境⑫もレイアップを決め、1Q同様得点の奪い合いとなる。このクォーター原三ツ境はリバウンドからセカンドチャンスで得点を重ね16得点。

川上北は1対1、ミドルシュートを中心に得点を重ね14得点と原三ツ境がリードを広げ2Qを終了した。

3Q

原三ツ境はマンツーマン、川上北はゾーンプレスでスタート。

川上北は⑧のゴール下シュート、④のアシストから⑦のシュートなどを含む4連続得点を奪い、開始2分30秒で逆転に成功する。

原三ツ境も⑫がロングシュートを沈め、再び逆転に成功するも、川上北の勢いは止まらない。

④のアシストから⑤のタップシュート、④のレイアップと再び5連続得点を奪い、このクォーターを6-20とした川上北が試合の流れを一気に引き寄せ35-44として3Qを終了した。



4Q

9点差を追う原三ツ境は⑤がミドルシュートを決めるも、川上北④のアシストから⑤が速攻を決める。

原三ツ境は④のビッグセンターにボールを集め積極的にゴールを狙う。

しかし、原三ツ境④が得点を奪えば、川上北は④の速攻、フローター、⑦のミドルシュートと

すぐさま得点を奪い返し中々点差が縮まらない。

残り1分45秒48-55で原三ツ境がタイムアウト。

原三ツ境はタイムアウト後④のゴール下、⑤、⑥がロングシュートを沈めるも最後は川上北が落ち着いてボールキープしタイムアップ。

決勝に相応しいエキサイティングな試合は54-57で川上北が優勝を果たした。